

\* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) \*



令和7年第27週 (6月30日～7月6日)

**伝染性紅斑が増加しました**

今週の竹田市調査医療機関からの報告数は2名と、先週の0名から増加しました。  
 大分県全体では、先週から引き続き定点あたり3.33人と、流行発生警報の開始基準値を上回っています。  
 伝染性紅斑は別名リンゴ病とも呼ばれ、発熱やかぜ様症状のあとに両頬や腕・脚に紅斑がみられます。感染力があるのは、紅斑がでる前の1週間程度となっており、紅斑が出た時には感染力はほぼありません。  
 妊娠している方が初めて感染した場合、胎児に影響する可能性があるため注意が必要です。  
 飛沫感染や接触感染で広がるため、手洗いうがいをし、咳エチケットに気をつけましょう。



**ヘルパンギーナの報告がありました**

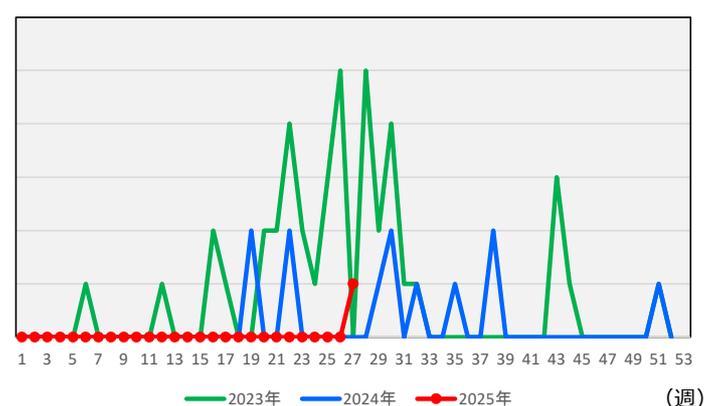
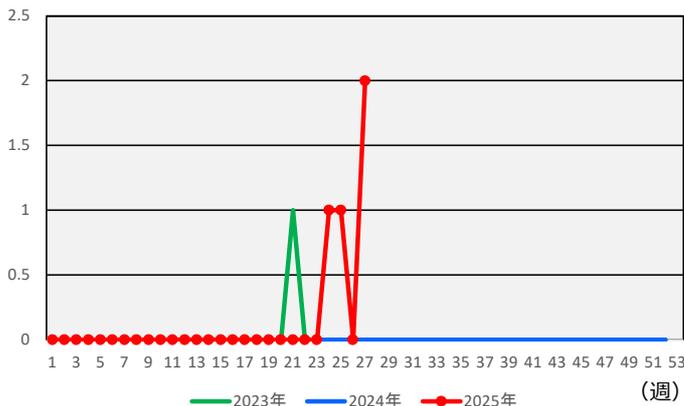
今週の竹田市調査医療機関からの報告数は1人でした。  
 大分県全体では、定点あたり5.78人と先週の3.94人と比較して増加し、特に大分市は定点あたり11.55人となっています。  
 ヘルパンギーナはウイルスが原因で起こる夏かぜの1つで、例年6～8月に流行し、子どもに多くみられます。発症すると、突然の高熱(39.0℃以上)やのどの奥の周りに小さな水疱や潰瘍がみられます。強いのどの痛みがあり、食事や水分摂取が困難になることもあります。ゼリーやアイスクリームなど冷たくてやわらかいもの、おかゆ、スープなど刺激の少ないものを少しずつこまめに与えましょう。予防のためには、手洗いうがいをすること、タオルの共用は避けること、おもちゃやドアノブを定期的に洗浄・消毒することがあります。また、便中にウイルスが含まれ、治った後もしばらく排出されるため、おむつ交換や排便後はしっかり手洗いをすることが大事です。

(第27週) (調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)	
	A型	B型	不明																	
0歳																				
1～3歳																				
4～6歳											1		1							
7～9歳								1			1									
10～14歳																				
15～19歳																				
20歳以上				1																
今週				1				1			2		1							
70歳以上(再掲)																				
先週		1		6				4												

(人) 伝染性紅斑竹田市8医療機関総数

(人) ヘルパンギーナ竹田市8医療機関総数



でんせんせいこうはん

# 伝染性紅斑

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。



10～20日の潜伏期間の後  
微熱・かぜに似た症状

この時期にウイルスの排出が最も多くなります。



こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように  
赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは1週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

## 予防と対策

手洗い、マスク着用など



基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。子どもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

## 妊娠中又は妊娠の可能性のある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことがない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成

